

青森東まちづくりプロモーション

高校生ボランティア・アワード2024

「目の不自由な人

の視点から考えるまちづくり



私たちはこの活動を始めにあたって、何をテーマにするかを話し合った。その会話の中で私たちの高校の近くにある盲学校について興味を持った。そこから、青森県立盲学校のホームページやSNSをから目の不自由な人にとっての良いまちづくりとは何かを考えることにした。

活動を始めるときにはまず目の見えない人の生活はどうなっているか、その中でどのような問題点や工夫されているものがあるのかを詳しく知り、理解してからまちづくりについて考える必要があると考えた。そこで私たちは青森県視覚障がい者情報センターへ足を運び、実際に使われている視覚障がい者用具を手に取り体験するという調べ学習を行うことで、より現実的に詳しく目の見えない人にとっての生活の不便さ、工夫の方法について考えを深める。実際に青森県視覚障がい者センターで行われている取り組みには以下のようなものがある。

『青森県障害者センターで行われている取り組み』

点字刊物及び視覚障害者用の録音物の制作及び利用に関する業務

点訳専任者及び朗読専任者の育成指導に関する業務

→点字刊物及び視覚障害者用の録音物を制作する点訳専任者及び音訳専任者を養成するための講習会を開催。

点字刊物及び視覚障害者用の録音物の奨励及び相談に関する業務

→月1回情報誌「青い森通信」で新聞図書案内、蔵書目録の提供、視覚障害者情報総合ネットワーク利用に向けた手続き支援、利用者の個別ニーズに対応したレファレンス・サービスの実施。

視覚障害者に対する相談、指導訓練及び情報提供に関する業務

→中途視覚障害者に対する相談・点字指導、データー図書再生機器の操作指導、視覚障害者用日常生活用具及び情報機器の展示・貸出等の情報提供。

正直なところ私はこの活動を始めまで、地域の中にこのような視覚障がい者についての情報を取り扱っている施設があることを知らなかった。私たちはこのような施設が行っている活動も踏まえ、目の見えない人に限らず、誰もが暮らしやすい町づくりのためにできる活動の幅を広げ、それを積極的に発信し、青森の明るい未来に少しでもつながるような活動をしていきたい。

「誰かの力になりたい」

『誰かの力になりたい』

『私たちの地元を誰もが幸せに暮らせるまちにしたい』

そんな同じ希望を持ち、集まった私たち3人。青森東高校の近くにある青森県立盲学校に焦点を当て、目が見えない人の視点から良いまちづくりとは何かを考え、発信していく。

現在、私たちが住んでいる青森県では2000年代前半から急速に進んでいるまちの高齢化、少子化による人口減少の問題がある。次へと伝える世代が減少している中で様々な魅力を持つ青森を未来に繋げていくにはどうすれば良いのか。そのためにはまちなかを整備し、安全な環境を作ることが暮らしやすさへと繋がると人口流出を防ぎきっかけとなるかもしれない。そこで私たちは目の不自由な人に焦点をあて、これからの未来のためにつながるバリアフリーなまちづくりを目指して活動をしていく。

例えば街中を歩いているとき、点字ブロックや音響式信号機、階段のスロープにある手すりなど様々なところで視覚障がい者への工夫が見られる。しかし道の途中で点字ブロックが抜けてしまっていたり、途切れていたりする場所がある。また音響式信号機がないところもある。そのような街を目の見えない人は実際どのように対応しているか、どのように思っているか実際の対話を通して調べたい。



活動の目標

地域貢献

私たち高校生が地域をより良くするため、人とのつながりを大切にし自主的・主体的に課題解決に働きかける。

点滴穿石

これから活動のなかで見つける細かな疑問や発見も詳しく研究しようとする気持ちを忘れない。

初志貫徹

はじめに自分たちが掲げた目標を達成できるように困難も諦めず乗り越える努力を続ける。

一期一会

私たちがこの活動を行う上で様々な人の協力が必要になる。この活動に協力して頂いた人との出会いに感謝しながら活動を行う。

私たちは活動の中でこの3つの目標を意識して活動を行う。また右の4つのSDGs目標の実現に少しでも近づけるように意識し、これからの私たちが住み続けられるような様々な面でバリアフリーが行われれるまちづくりの活動を行って行く。



3 すべての人に健康と福祉を



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



16 平和と公正をすべての人に



「誰もがどこでも

安全に暮らせる街にする」～未来につながる活動～

これからの活動計画として、私たちは障がい者情報センターや青森県立盲学校などの障がいについての情報を多く扱っている施設へ訪問し私たちが知らなかった目が見えない人への町の工夫を調査する。またその施設で当事者との対話を行い交流を深め青森県の目が見えない人のための道などの設備の現状や問題点を当事者の視点から把握する活動を行って行く。そこから盲学校付近の交通機関を利用して人へ向けた啓発ポスターの作成を行いまちの人の障がいのある人の生活についての理解度を高められるような活動をしていく。今後、問題点や改善点が見つかった場合は行政機関へ案を送るなどの行動を取る予定。

市街地へ足を運び実際に今ある障がいのある方への工夫としてどのようなものが町中にあるのか、実物を確認し、その有効性や改善点を見つけるフィールドワークも行って行く。

これからの私たちの目が見えない人に重点を置いたまちづくりの活動を通して、実際のまちの設備はもちろんだが、人々の意識も改善し青森がこれから先の未来に残していけるようなバリアフリーなすべての人々が暮らしやすい地域へと少しでも変えるきっかけを作れることを願っている。



活動団体プロフィール

- ・青森県立青森東高校の2年次の3名からなるグループ。
- ・総合的な探求の時間の学びの延長線として活動。
- ・青森の2000年代前半から続いている人口減少を食い止めるための方法について様々な観点から考える。
- ・三人が同じ部活動に所属している。
- ・それぞれが異なる進路を希望しているが、各自の進路に合った様々な研究方法を行っていく。
- ・それぞれが得意としているものを合わせ、様々な問題解決に繋げていく。

